



4月7日(火)

きよい心を造ってください

聖書朗読 詩篇 51:1~19

そのようなわけで、私たちは、心に血の注ぎを受けて邪悪な良心をきよめられ、からだをきよい水で洗われたのですから、全き信仰をもって、真心から神に近づこうではありませんか。  
ヘブル 10:22

バテ・シェバとの姦淫の罪と、彼女の夫ウリヤが戦死するよう<sup>はか</sup>に謀ったことについて、預言者ナタンに詰め寄られた後に、ダビデはこの詩篇 51 篇を書いたものと思われます。ダビデと同じように、私たちは皆、罪を犯しました。私たちの罪は、ダビデと同じような結果をもたらした訳ではないかもしれませんが、恥ずかしくて認められない方法で他人を傷つけたことがあります。周りの人が私たちの罪を知らなくても、神様はご存じです。そして、神様は、時にはダビデのときにされたように、自分の魂を映す鏡をかざすために、友人を遣わされたり、困難な時に私たちを直面させたりされることもあるかもしれません。

自分の罪と向き合ったとき、どう反応するかを選ぶことができます。「わざとじゃない」「私のせいじゃない」「他の人はもっとひどいことをした」などと、自分の罪を正当化することもできますし、ダビデがしたように、謙虚に、そして正直に「私は罪を犯しました」と言うこともできます。

自分の罪を認めるとき、神様が約束してくださった、きよい心を求めることができます。それは新しく正しく神様の愛に満ちた心です。イエス様を通して、神様は赦しを与えてくださるだけでなく、聖霊と、神様の恵みを映し出し、周りの人たちに神様の愛を示す心を与えてくださいます。

讃美歌 521 イエスよ、ここに宿りて

祈り 聖なる神様。罪人である私たちを憐れんでください。私たちにきよい心を造り、ゆるがない霊を私たちのうちに新しくしてください。イエス様の血によって完全に洗い清められ、喜びを取り戻すことができますように。イエス様のお名前において。アーメン。

テネシー州 ナッシュビル / ゲイリー・ホロウェイ

4月8日(水)

私は恐れません

聖書朗読 詩篇 56:1~7

私は、神に信頼しています。それゆえ、恐れません。人が、私に何をなしえましょう。  
詩 56:11

ダビデは恐怖というものをよく知っていました。敵に囲まれたダビデは、神様に自分の弱さを告白しました。それと同時に、『私は、神に信頼しています。それゆえ、恐れません』という確信を表明しました。

標準的な英語版聖書では“樂觀主義”という言葉は使われていませんが、聖書は信仰、自信、確信、希望について多くのことを語っています。それは神様の確かな慈悲深い御力を明らかにしています。私たちの救い、希望、命は、神様の御手の中で安全に守られています。私たちの信頼は、主ご自身にしっかりと根ざしています。

神様に信頼するという信仰の核心を破壊することは誰にもできません。私たちの宝は天国にあります。永遠の救いは、神様の御力によって十分に備えられています。自分から離れる以外、何人たりとも、神様の御手から私たちを引き離すことはできません。私たちは恐れる必要などないのです。

私たちの神は力に満ち いつでも働き救ってくださる

私は神に信頼する 神は私のいのちを

死を越えて完全に守ってくださる —JRM\*

(\*編注：フィリピンで始まった非営利のキリスト教団体)

讃美歌 495 イエスよ、この身をゆかせたまえ

祈り 天の軍勢を率いられる神様。あなたが私の味方でいてくださることを私は知っています。恐れが忍び寄ってきたら、あなたのお約束を思い出させてください。あなたの御前で安らぎ、みことばに信頼し、恐れずに生きられますように。イエス様のお名前において。アーメン。

ブラジル サン・ジョゼ・ドス・カンポス / J.ランダル・マセニー

4月9日(木)

## 私たちの涙

聖書朗読 詩篇 56:8~13

彼は岩に坑道を切り開き、その目はすべての宝を見る。 ヨブ 28:10

涙は深い感情を表現します。私たちは、肉体的や感情的な痛み、苦悩、不安、悲しみ、同情心などによって涙を流します。涙は魂の窓であり、心を清め、背負っている重荷を解き放ってくれますが、神様が私たちの涙をどのように受け止めてくださっているか、考えたことがありますか。

ヒゼキヤ王は、預言者イザヤから死の準備をするように告げられたとき、主に祈り、大声で泣きました。神様はそれに答えられ、イザヤを再び遣わし、別のメッセージを伝えさせました。『わたしはあなたの祈りを聞いた。あなたの涙も見た。見よ。わたしはあなたをいやす。』(Ⅱ列王記 20:5)。 どういうことか分かりますか。 神様はヒゼキヤの涙をご覧になったのです。

詩篇56篇には、神様は私たちの涙をご覧になるだけではなく、覚えていてくださるがあります。逃亡中、危険に囲まれたダビデは、自分が直面するあらゆる危難を神様が心に留めてくださることを信じていました。8節にはこうあります。『どうか私の涙を、あなたの皮袋にたくわえてください。それはあなたの書には、ないのでしょか。』慰めの神様は私たちの涙を心に留め、共に泣いて下さり、私たちを必ず導いて下さいます。

悲しみからであれ、憐みからであれ、私たちが泣くとき、神様は気づいて、心配し、支えてくださいます。なんとという慰めでしょう。『あなたの重荷を主にゆだねよ。主は、あなたのことを心配してくださる。』(詩篇 55:2 2前半)

讚美歌 うき世のあらなみ

祈り 親愛なる主よ。時に心の底から傷つくような出来事で満ち溢れているような日があります。また時には、周りの人たちが受けた痛みで自分の心が痛むこともあります。私たちの涙を見てくださり、重荷を担ってください、ありがとうございます。特に自分の気持ちが暗く落ち込んでいるときに、私たちを支え祝福してください。イエス様のお名前において。アーメン。

テネシー州 ナッシュビル / ポール・デラティー

4月10日(金)

## あらゆる望みを神様におく

聖書朗読 詩篇 62篇

わがたましいよ。なぜ、おまえはうなだれているのか。なぜ、私の前で思い乱れているのか。神を待ち望め。私はなおも神をほめたたえる。私の顔の救い、私の神を。

詩 42:11

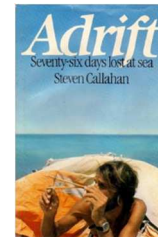
《漂流》は、大西洋周航のために船を建造した男の物語です。彼は悪天候に遭遇し、船は沈没しました。80日間近く、彼は小さな筏いかだに乗って生き延びました。彼を生き延びさせた唯一のもの、それは希望です。最悪だったのは、救助の見込みがまったくない日々でした。島は見え、近くに航路もなく、水平線上には救助の可能性が何も見えません。それでも、彼の希望は持ちこたえ、彼を支え続けました。

かつて誰かが言いました。「私たちは食べ物なしで40日間、水なしで8日間、空気なしで4分間生きられるが、希望なしではほんの数秒しか生きられない」と。

息子アブシャロムから逃げていたとき、ダビデは神様に叫びました。『私のたましいは黙って、ただ神を待ち望む。私の望みは神から来るからだ。』(訳注:詩62:5) 私たちの希望も同じ場所から来ます。私たちの岩、救い、やぐらである神様に祈るとき、私たちもまた、安らぎと希望を神様のうちに見出すことができるのです。

讚美歌 267 神は わがやぐら

祈り 親愛なる主よ。私たちの希望はただあなたにあります。どんなことがあっても私たちの魂はあなたのうちに安らぎを見出せることを覚えられますように。イエス様のお名前において。アーメン。



テキサス州 モンゴメリー / デール・フォスター

4月11日(土)

いのちのあるかぎり

聖書朗読 詩篇 95:1~7

真夜中ごろ、パウロとシラスが神に祈りつつ賛美の歌を歌っていると、ほかの囚人たちも聞き入っていた。  
使徒 16:25

子どもの頃、地元の教会で、聖歌500《みことばなるひかりのうち》を賛美するとき、子どもながらも一生懸命コーラスに参加したものです。

♪げに主は よりたのみて したごうものを めぐみたまわん♪

大人になった今も5番\*(\*訳注:日本版では4番)まで全部歌えますし、子どもの頃よりも今の方がずっと深く心に響きます。4番(日本版では3番)はこうです。

♪祭壇にゆき 身も心も ささぐると同時に 喜びをば満たしたまわん よりたのむわれらに♪

子どもの私にとっては、この歌詞が大きな意味を持つことはなかったと思いますが、今は大きな意味を持っています。

初期の教会には讚美歌集もパワーポイントのスライドもありませんでした。それでも彼らは歌いました。『詩と賛美と霊の歌とをもって、互いに語り、主に向かって、心から歌い、また賛美しなさい。』(エペソ 5:19)

子どもたちが主に向かって歌うとき、主は喜んでくださると信じています。20年、40年、70年後も、まだ私たちは歌っているでしょうか。さあ、皆さん、歌い続けましょう。

私は生きているかぎり、主に歌い、  
いのちのあるかぎり、私の神にほめ歌を歌いましょう。  
詩篇 104:33

聖歌 500 みことばなる ひかりのうち

祈り お父様。あなたを賛美すること、また私たちが一緒に歌うことで得られるすべてのことに感謝します。心からの真の喜びをもって歌うことができますように。イエス様のお名前において。アーメン。

テキサス州 コマース / デイビッド・ギブソン

4月12日(日)

座って考える

聖書朗読 詩篇 104篇

私の心の思いが神のみこころにかないますように。私自身は、主を喜びましょう。  
詩 104:34

“座って考える時もあれば、ただ座っている時もある”(訳注:A.A.ミルン著《くまのプーさん》でプーさんが言った言葉であるとか、野球選手サチュエル・ペイジがよく言っていたとか、諸説ある)詩篇104篇を読むと、この言葉が頭に浮かびます。声に出して読むと、詩篇の作者が玄関前のテラスに座り、創造について思いを巡らせているような印象を受けます。神様は地をその基の上に据えられました。そして、詩篇の作者の思いは山々や谷から、大きく広い海や、そこに住むすべてのものへと移っていきます。湧き出る泉は野ろばの渴きをいやし、主は家畜のために草を、また、人に役立つ植物を生えさせられます。

目に見えるものについて考えることから始まり、『主よ。あなたのみわざはなんと多いことでしょう。あなたは、それらをみな、知恵をもって造っておられます。』(詩 104:24)という黙想につながります。そして、それは、『わがたましいよ。主をほめたたえよ。ハレルヤ。』(詩 104:35)という礼拝になります。

ずっとスマホばかりいじっている今の時代、そのように物事を深く考える時間はほとんどありません。深い考えも、黙想も、たましいが神様をほめたたえることありません。もしかしたら、じっと座って考えることが、神様に喜んでいただけるような黙想へと私たちを導いてくれるかもしれません。

讚美歌 90 ここも神の みくになれば

祈り 私たちのお父様。創造という贈り物に感謝します。その美しさと素晴らしさに気づいて立ち止まるとき、私たちの黙想があなたに喜んでいただける讚美となりますように。イエス様のお名前において。アーメン。

テキサス州 グランベリー / クリス・フリッゼ

